

第 86 回 幹 事 会

平成 2 1 年 1 2 月 2 4 日

日 本 学 術 会 議

第86回幹事会議事次第

日時：平成21年12月24日（木）14：00

Ⅰ 非公開審議事項

- | | | |
|--------------|-----|---|
| 1 委員会関係 | 提案1 | 国際委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 |
| | 提案2 | 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定等 |
| | 提案3 | 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会設置要綱の一部改正及び特任連携会員の任期の延長 |
| 2 国際会議関係 | 提案4 | IAP声明 「経済危機への対応（仮題）」 |
| 3 外部委員候補者の推薦 | 提案5 | 外部委員候補者の推薦 |
| 4 その他 | | 日本学術会議ミニ・シンポジウムの構想 |

Ⅱ 審議事項

- | | | |
|-----------|------|--|
| 1 提言等 | 提案6 | 報告「『リスク社会』下の自由と規制－撤退は国家の宿命か－」 |
| 2 団体等の指定 | 提案7 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| 3 国際会議関係 | 提案8 | 第19回国際科学会議科学計画評価委員会（19th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR)）出席に係る会員の派遣 |
| 4 シンポジウム等 | 提案9 | 公開シンポジウム「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」 |
| | 提案10 | 第26回宇宙利用シンポジウム |
| | 提案11 | シンポジウム「日本の生きるべき新しいパラダイムと材料学」 |
| | 提案12 | 第3回情報学シンポジウム「情報分野のロードマップ」 |
| | 提案13 | 公開シンポジウム「高齢者の健やかな生活を実現するために－基盤づくりと人材育成」 |
| | 提案14 | 公開シンポジウム「日本の学術の展望－化学からの提言2010と科学技術政策提言」 |
| | 提案15 | 第54回日本学術会議材料工学連合講演会 |
| 5 後援 | 提案16 | 国内会議 |
| | 提案17 | 国際会議 |

Ⅲ その他

資料2

第86回幹事会（12月24日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴村 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	海部 宣男

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長談話	1
3 審議付託等	2
4 賞等の推薦	3
第2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	4
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3 機能別委員会の開催とその議題	4
4 分野別委員会の開催とその議題	5
5 課題別委員会の開催とその議題	11
6 サイエンスカフェの開催	12
7 総合科学技術会議報告	13
8 慶弔	13

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
11月26日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
12月1日(火)	科学技術・学術審議会 第9回基本計画特別委員会	金澤会長
12月3日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
12月4日(金)	第2回日本の創薬力向上シンポジウム(日本学術会議講堂) ※講演	金澤会長
	日本学術会議中部地区会議学術講演会(名古屋大学) ※講演	唐木副会長
12月9日(水)	新型インフルエンザに関する緊急公開シンポジウム(日本学術会議講堂) ※開会挨拶	金澤会長
12月10日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
12月11日(金)	公開シンポジウム「科学技術と知の精神文化—新しい科学技術文明の構築に向けて」(日本学術会議講堂) ※開会挨拶、パネリスト	金澤会長、大垣副会長
12月14日(月)	シンポジウム「学術コミュニティと知的財産」(日本学術会議講堂) ※開会挨拶	金澤会長
12月15日(火)	科学技術・学術審議会 第10回基本計画特別委員会	金澤会長
12月16日(水)	総合科学技術会議 第3回基本政策専門調査会	金澤会長
	日本学術会議東北地区会議学術講演会(弘前大学) ※講演	大垣副会長、竹林局長
12月17日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
	黒川前会長レジオンドヌール勲章授与式	金澤会長、大垣副会長、唐木副会長

2 会長談話

我が国の大学が目指すべき将来像についての会長談話

日本学術会議では、国の内外に対して、広く日本の学術研究の方向・展望を提示することを目的として、昨年、総力を挙げて「日本の展望—学術からの提言2010」(注)の作成を進めてきています。この中で、人材育成と国民の生涯学習の両面から、中長期的視点で我が国の大学のあるべき姿を描き、そのような姿を実現するための方策についても検討してきたところです。大学の扱いについては、今回の行政刷新会議

での事業仕分けにおいても多少の議論がありましたが、ここで「日本の展望」の取りまとめの議論を踏まえて、我が国の大学が目指すべき将来像について、日本学術会議としての考えを改めて述べたいと思います。

知を尊重する心を駆動力として、人類社会に貢献する豊かな知識基盤社会を構築するためには、大学の門戸を拡げ、人材育成の質を一層向上させることが不可欠です。このことを日本の国家的な命題として位置付け、我が国の大学が、以下のような将来像を実現することを目指すべきであると考えます。

- (1) 様々な能力に秀でた多様な人材を生み出す、輝く個性と優れた機能を有する、知の連山としての国公立の大学
- (2) 国際レベルの質の高い高等教育の機会を提供し、高度の専門的知識と市民的教養の教育の達成度を保証する大学
- (3) 国民の一人一人が、より成熟した世界観、価値観を獲得できるよう、人生を主体的に設計する過程で、必要な高等教育を求める時期に享受する機会が得られるような、柔軟な制度を有する開かれた大学
- (4) 性別、年齢、社会経験などに関わりなく、内外から多様で多彩な人材を受け入れるとともに、広く人材を世界に送り出し、国境を越えて優れた人材の交流の架け橋となる大学
- (5) きめ細かい公的支援に支えられて、多様な教育研究理念を持ちながら切磋琢磨し、継続的な改革を自律的に進める大学

このような大学の将来像を実現していくことにより人材育成を成し遂げ、その結果として国家を再構築することこそ、我が国が、21世紀の知識基盤社会、多文化社会、生涯学習社会へと向かうほとんど唯一の道であると考えます。

そのためには、国民に対する高等教育の修学奨励と、国公立大学の教育研究基盤と経営基盤の強化が取り分け必要です。これに関しては、当面OECD諸国の平均水準を指標として、公的支出レベルに抜本的な充実が図られることを期待するところです。

新政権の下で、いずれ中・長期的な視点から、我が国の大学が目指すべき将来像の明確な国家ビジョンが掲げられるものと思いますが、その実現を可能にするのは、高等教育に対する的確な「まなざし」と、具体的な「支援」であると考えます。心から期待しています。

注)「日本の展望－学術からの提言 2010」の素案は、学術会議のHPで公開されています。
(<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/tenbou/pdf/soan.pdf>)

平成21年12月7日
日本学術会議会長
金澤一郎

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
京都大学原子炉実験所運営委員会委員候補者の推薦	京都大学原子炉実験所長	総合工学委員会
東京大学物性研究所協議会委員候補者の推薦	東京大学物性研究所長	物理学委員会 化学委員会
第 10 回グリーン・サステイナブルケミストリー シンポジウムの後援	グリーン・サステイナブル ケミストリー ネットワーク会長	第二部 第三部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	都市環境デザイン会議他	科学者委員会

4 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
The Premi Internacional Catalunya 賞	各部	推薦なし
食の新潟国際賞	各部	推薦なし

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部拡大役員会（第8回）・日本の展望委員会 人文・社会科学作業分科会（第10回）合同会合（11月26日）

- ①「日本の展望－人文・社会科学からの提言」（最終案）について
- ②『第4期化学技術基本計画に関する日本学術会議の提言』について
- ③各分野別報告（最終案）について ④分野別報告（最終案）の査読について
- ⑤第1部関連の大型研究計画について（学術の大型研究計画分科会から）
- ⑥オーストラリア社会科学アカデミーとの交流について（AASSREC・IFFSSO分科会から） ⑦夏季部会について ⑧その他

(2) 第三部拡大役員会（第15回）（11月27日）

- ①日本の展望－理学・工学からの提言2010への会員、連携会員からの意見等について ②分野別委員会の展望（報告）の査読委員の割り振りについて
- ③科学技術基本計画への緊急提言について
- ④平成22年度第三部夏季部会について
- ⑤日本工学アカデミーとの懇談会について ⑥シンポジウムについて
- ⑦行政刷新会議仕分け作業について ⑧その他

(3) 第二部拡大役員会（第3回）・日本の展望委員会 生命科学作業分科会（第5回）合同会議（12月14日）

- ①「日本の展望－生命科学からの提言」について ②その他

(4) 第三部役員会（第2回）（12月10日 メール審議）

- ①第86回幹事会提案について

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 日本の展望委員会 社会の再生産分科会 拡大役員会（第2回）（11月26日）

- ①日本の展望委員会報告書（案）について ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会 広報分科会（第8回）（12月8日）

- ①日本学術会議の広報活動について ②『学術の動向』への編集協力について

(2) 科学者委員会 知的財産検討分科会 (第5回) (12月14日)

①報告書(提言I)案の審議 ②その他

(3) 科学者委員会 知的財産検討分科会 (第5回) (12月14日)

①報告書(提言I)案の審議 ②その他

(4) 科学者委員会 (第18回) (12月16日)

①日本学術会議協力学術研究団体の指定について(各部回答分) ②日本学術会議協力学術研究団体の指定について(各部への検討依頼)

(5) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 (第11回) (12月21日)

①第一次リストの取りまとめ ②報告書素案の構成と分担の検討 ③その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会 (第4回) (11月27日)

①司法・矯正領域における人材養成

村井 敏邦先生(龍谷大学法学部教授)

「龍谷大学のカリキュラムについて」

丸山 恭子先生(カリフォルニア州認定臨床ソーシャルワーカー)

「アメリカ合衆国カリフォルニア州臨床ソーシャルワーカー、州認定資格へのプロセス」

②その他

(2) 哲学委員会各分科会 (11月28日)

①「日本の展望」哲学委員会最終報告(案)について

②各分科会からの報告 ③今年度の活動報告と来年度の活動予定他

④その他

(3) 法学委員会 生殖補助医療と法分科会 (第5回) (11月29日)

①シンポジウムについて ②その他

(4) 法学委員会 「公の構造変化」分科会 (第5回) (11月30日)

①報告 1) 小沢 隆一委員「憲法学における公と私をめぐる理論状況(仮)」

②報告 2) 小幡 純子委員「公益法人における公益性(仮)」

③今後の運営について ④その他

(5) 法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会 (第4回) (12月1日)

①報告: 水野 紀子委員「親権規定の改正」 ②その他

(6) 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会 (第5回) (12月4日)

- ①言語・文学関連の学会についての現状・将来像Ⅰ(話題提供 逸身喜一郎委員)
- ②言語・文学関連の学会についての現状・将来像Ⅱ(話題提供 今西祐一郎委員)
- ③教養教育・共通教育検討分科会および日本の展望委員会 知の創造分科会の審議(話題提供 塩川 徹也委員)
- ④日本の展望委員会 大学と人材分科会の審議について(話題提供 高橋 和久委員)
- ⑤その他

(7) 言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会 (第4回) (12月4日)

- ①「翻訳」について(話題提供 柴田 翔委員) ②その他
- ③教養教育・共通教育検討分科会および日本の展望委員会 知の創造分科会の審議(話題提供 塩川 徹也委員)
- ④日本の展望委員会 大学と人材分科会の審議について(話題提供 高橋 和久委員)
- ⑤その他

(8) 言語・文学委員会 科学と日本語分科会 (第5回) (12月4日)

- ①今後のスケジュール ②その他
- ③教養教育・共通教育検討分科会および日本の展望委員会 知の創造分科会の審議(話題提供 塩川 徹也委員)
- ④日本の展望委員会 大学と人材分科会の審議について(話題提供 高橋 和久委員)
- ⑤その他

(9) 史学委員会 科学史上の重要理論の現代的影響検討分科会

(第4回) (12月5日)

- ①当日の役割分担の確認について ②資料展示について
- ③資料の販売について ④『学術の動向』特集号について ⑤その他

(10) 社会学委員会 ジェンダー研究分科会 (第5回) (12月7日)

- ①3月13日・シンポジウム開催に向けての打ち合わせ ②その他

(11) 第一部関連分野別委員会 AASSREC・IFSSO分科会

(第5回) (12月7日)

- ①IFSSO総会についての報告と今後の対応について
- ②第19回AAAAREC総会(大会)に向けて統一テーマの提案
- ③オーストラリア社会科学アカデミーJohn Beaton事務局長から提案のあったInternational Science Linkages Programへの対応 ④その他

(12) 心理学・教育学委員会 心理学教育プログラム検討分科会

(第5回)(12月7日)

- ①心理学に関わる高校の授業の問題分析(仁平委員)
- ②心理学の中等教育導入に関わる教育課程制度について(無藤委員)
- ③高大連携に関わる高校生向け心理学授業の現状について(佐藤委員)
- ④資格問題の動向 ⑤その他

(13) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会(第5回)(12月13日)

- ①シンポジウムの運営について ②その他

(14) 社会学委員会 社会福祉学分科会(第6回)(12月14日)

- ①日本社会福祉教育学校連盟による大学院調査の報告(2009年度調査)
大友 信勝氏(龍谷大学)
- ②2010年度学術会議主催シンポジウムについて ③その他

(15) 社会学委員会 福祉職・介護職育成分科会(第7回)(12月14日)

- ①提言について ②その他

(16) 地域研究委員会 多文化共生分科会(第6回)(12月14日)

- ①「アイヌ民族と多文化共生」 佐々木 利和
(国立民俗学博物館,「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」元委員)
- ②「先住民と多文化共生」 窪田 幸子委員 ③コメント 本多 俊和委員
- ④「カナダの多文化主義—政策としての特質と課題」 加藤 普章
(大東文化大学教授) ⑤その他

(17) 社会学委員会 少子高齢社会分科会(第3回)(12月18日)

- ①シンポジウムの準備状況について ②今後の活動予定について ③その他

(18) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同 高校地理歴史科教育に関する分科会(第6回)(12月20日)

- ①報告「なぜ歴史研究者は高校の歴史教育と断絶しているのか」
桃木 至朗氏(参考人)
「教員養成における教育研究と歴史研究の課題」坂井 俊樹氏(連携会員)
「教員養成大学・学部における地理の現状と問題点—専門性要請の観点から—」
秋山 元秀氏(連携会員) ②その他

(19) 法学委員会 「グローバル化と法」分科会(第5回)(12月20日)

- ①報告：法律分野における教育・研究の国際協力—特に九州大学が行っている活動を中心について(吾郷委員) ②その他

第二部担当

(1) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会 (第5回) (11月27日)

- ①日本学術会議総会及び第二部会 (10月19日、20日開催) 報告
＜福永委員＞
- ②各ワーキンググループの活動報告
 - 1) 指針の策定 (提言) ＜大築委員＞
 - 2) 男女共同参画＜飯田委員＞
 - 3) ターミノロジー＜寒川委員＞
 - 4) 若手研究者育成＜栗原委員＞
 - 5) 将来展望＜福永委員＞
 - 6) 運動と心社会性＜杉原委員＞
- ③日本スポーツ体育健康科学学術連合関係＜高松委員＞
- ④その他

(2) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生態科学分科会 (第3回) (11月30日)

- ①この間の学術会議の状況報告 (鷲谷委員)
 - ・ 日本の展望の取りまとめについて
 - ・ COP10に向けた学術分野の取り組みについて
- ②2010年度に向けた統合生物学委員会の活動計画
- ③生態科学分野における大規模研究計画の立案について
- ④大学における生態・自然史研究施設の現状に関するアンケート調査の準備
- ⑤その他

(3) 統合生物学委員会 (第7回) (12月3日)

- ①統合生物学委員会の提言「生物多様性の保全と持続可能な利用に関する統合生物学からの提言」について
- ②公開講演会の計画について
- ③統合生物学分野の大規模研究計画について
- ④その他

(4) 農学委員会 農業生産環境工学分科会 (第5回) (12月3日)

- ①遺伝子組み替え特定網室関連の提言書の検討
- ②環境教育関係の提言についての検討
- ③農業生産環境工学分科会の今後の方向性について
- ④その他

(5) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 海洋生物学分科会 (第3回) (12月4日)

- ①生物多様性年 生物多様性条約締約国会議COP10への対応について
- ②海洋生物学関連学会の連携強化について
- ③その他

- (6) **健康・生活科学委員会 生活科学分科会** (第8回) (12月8日)
①公開講演会の準備について ②コンソーシアムの活動について ③その他
- (7) **基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 医学教育分科会**
(第5回) (12月11日)
①前回分科会におけるヒアリングについて ②対外報告について ③その他
- (8) **基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 腫瘍分科会** (第2回) (12月15日)
①我が国の癌研究の方向について ②その他
- (9) **農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会**
(第5回) (12月17日)
①分科会WG「知能的太陽光植物工場」について
②分科会WG「農林水産RS/GIS」について
③その他
- (10) **臨床医学委員会 臨床系大学院分科会** (第2回) (12月18日)
①これまでの討議のまとめ(案)について ②その他
- (11) **農学委員会 農業経済学分科会** (第4回) (12月19日)
①北東アジアにおける経済連携強化に関する提言内容の検討
②国際ワークショップ「北東アジアにおける共通農業政策の展望」 ③その他
- (12) **農学委員会 応用昆虫学分科会** (第4回) (12月19日)
①応用昆虫学分科会セミナー「昆虫科学教育が拓く未来」
(関連学会会員の参加による昆虫科学教育をテーマとする勉強会)
②昆虫科学連合準備委員会の活動状況の報告
③分科会活動の具体的計画について ④その他
- (13) **臨床医学委員会 呼吸器分科会** (第2回) (12月19日)
①提言のテーマの検討について ②その他
- (14) **基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 細胞生物学分科会** (第2回)、
基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会 (第2回) 合同会議
(12月21日)
①細胞生物学、形態・細胞生物医科学及び基礎生物学、基礎医学に対する政治
状況 ②今回及び次回シンポジウムについて ③今後の活動について
④その他

第三部担当

- (1) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 W F E O分科会
(第7回)(11月27日)
①W E Cの日本招致について ②その他
- (2) 機械工学委員会 製品設計の科学分科会(第1回)(11月30日)
①委員自己紹介 ②委員長等の選出 ③第21期の進め方について ④その他
- (3) 土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会(第4回)(12月1日)
①国土づくりコンセプトに関するワークショップ企画について
②提言の構成とロードマップ ③その他
- (4) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会(第4回)(12月3日)
①日本の展望について ②全国地球惑星科学系大学の問題 ③その他
- (5) 地球惑星科学委員会 I M A分科会(第3回)(12月3日)
①I M A 2 0 1 0 B u d a p e s tについて
②M i n e r a l o g y, P e t e r o l o g y, G e o c h e m i s t r yの
国際対応について(J p G U, W P G M, G o l d s c h m i d t C o n f e
r e n c e, I M A 2 0 1 0など) ③I M AのC P M(C o m m i s s i o n
o f P h y s i c s o f M i n e r a l s)の拡充について ④その他
- (6) 総合工学委員会 I C O分科会(第4回)(12月10日)
①光量子科学技術連携委員会について ②シンポジウムの計画について
③その他
- (7) 物理学委員会(第7回)(12月15日)
①日本の展望の原稿に関して ②大型計画に載せる物理学委員会関連の計画に
ついて ③その他
- (8) 機械工学委員会 ロボット学分科会(第3回)(12月15日)
①シンポジウムについて ②その他
- (9) 第三部 理科・数学・技術に関する初等・中等教育検討分科会
(第1回)(12月16日)
①役員の選出 ②委員の追加について ③検討する内容について
④今後の進め方について ⑤その他

(10) **土木工学・建築学委員会 拡大役員会** (第7回) (12月18日)

- ①「日本の展望」について ②「緊急提言」について ③その他

(11) **土木工学・建築学委員会** (第3回) (12月18日)

- ①第21期土木工学・建築学委員会の活動方針について
②各分科会の構成と活動報告
③「日本の展望」について【関連学協会からのご意見】
1) 概要説明
2) 日本建築学会
3) 土木学会
4) 空気調和・衛生工学会
5) 地盤工学会
6) 日本コンクリート工学協会
7) 日本都市計画学会
8) 日本造園学会
9) 全体討論
④緊急提言について
1) 趣旨説明
2) 全体討論
⑤その他

(12) **総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会**
(第3回) (12月21日)

- ①報告「総合工学の展望」について
②19学会長連盟の声明について (12月4日(金))
③学術の大型研究計画研究分科会へのインプットについて
④「三菱重工の再生エネルギーの産業化の現状と展望」
三菱重工業株式会社風車事業ユニット首席 上田悦紀氏
⑤今後の検討の進め方について ⑥その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) **大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会**

大学と職業との接続検討分科会 (第12回) (12月1日)

- ①今後の検討の方向性について ②その他

(2) **大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討**

分科会 (第13回)・日本の展望委員会 知の創造分科会 (第11回)
合同分科会 (12月4日)

- ①日本の展望委員会報告(案)について ②今後の検討の方向性について

③その他

(3) 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会 (第4回) (12月11日)

- ①現状と課題についてー各委員の専門的な見地からの報告
②今後の審議の進め方について ③シンポジウムについて ④その他

(4) 人間の安全保障とジェンダー委員会 (第5回) (12月14日)

- ①ヒアリング ②今後の方針について ③その他

(5) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

質保証枠組み検討分科会 拡大役員会 (第3回) (12月17日)

- ①分野別質保証の枠組みについて ②その他

(6) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

大学と職業との接続検討分科会 (第13回) (12月22日)

- ①今後の検討の方向性について ②その他

6 サイエンスカフェの開催

(1) 11月27日(金) 19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：看護のアートとサイエンスを拓く高度実践看護師

講 師：小松 浩子(日本学術会議連携会員、聖路加看護大学教授)

室伏 きみ子(日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学教授)

(2) 12月13日(日) 15:00～17:00

場 所：東京都臨床医学総合研究所2階講堂

テーマ：強毒型鳥インフルエンザは本当に来るの？

講 師：話題提供：芝崎 太(東京都臨床医学総合研究所がん・生活習慣病
プロジェクトプロジェクトリーダー・副参事研究員)

ゲスト：櫻井 陽(東京都臨床医学総合研究所がん・生活習慣病
プロジェクト研究員)

(3) 12月13日(日) 15:00～18:00

場 所：札幌市紀伊国屋書店1階インナーガーデン

テーマ：日本列島人を考える～骨とDNAから～

講 師：講師：馬場 悠男(日本学術会議連携会員、国立科学博物館人類研究部
前部長、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会委員)

ファシリテータ：斎藤 成也(日本学術会議第二部会員、国立遺伝子学
研究所教授、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会

委員長)

(4) 12月14日(月) 18:00～20:30

場 所：北海道教育大学旭川校 P202教室

テーマ：「電子地図で変わる地域の見方」(碓井)

「地図で深める地域と世界の理解」(氷見山)

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

(第87回)

12月9日

(1) 鳩山政権下における科学技術関係予算の編成過程の特色

(2) 平成22年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について

(3) 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動の把握・所見取りまとめ

(4) 科学技術関係予算の編成に向けて

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

・	11月26日	＊会長出席
・	12月 3日	＊会長出席
・	12月10日	＊会長出席
・	12月17日	＊会長出席
・	12月24日	＊会長出席予定

8 慶弔

○ 慶事

◇ 日本学士院会員(平成21年12月14日付け)

塩川 徹也 (東京大学名誉教授) 第20～21期連携会員

深谷 賢治 (京都大学教授) 第20期会員、第21期連携会員

◇ レジオンドヌール勲章

黒川 清 (政策研究大学院大学教授) 前会長、第17～20期会員、第20～21期連携会員

○ ご逝去

吉田 民人（よしだたみと）	78歳	10月27日	第16～18期会員、 第18期副会長	東京大学名誉教授
四手井 綱英（しでいつなひで）	97歳	11月26日	第7～8期会員	京都大学名誉教授、京都府立大学名誉教授
杉岡 洋一（すぎおかよういち）	77歳	11月27日	第19期会員	九州大学名誉教授
石田 名香雄（いしだなかお）	86歳	12月4日	第13期会員	東北大学名誉教授
儀我 壮一郎（ぎがそういちろう）	90歳	12月8日	第9～12期会員	大阪市立大名誉教授
黒川 高秀（くろかわたかひで）	71歳	12月12日	第18期会員	東京大学名誉教授

審 議 事 項

		頁
II 審議事項		
1 提言等	提案6 報告「『リスク社会』下の自由と規制－撤退は国家の宿命か－」	1
2 団体等の指定	提案7 日本学術会議協力学術研究団体の指定	2
3 国際会議関係	提案8 第19回国際科学会議科学計画評価委員会 (19th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR)) 出席に係る会員の派遣	3
4 シンポジウム等	提案9 公開シンポジウム「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」	4
	提案10 第26回宇宙利用シンポジウム	6
	提案11 シンポジウム「日本の生きるべき新しいパラダイムと材料学」	8
	提案12 第3回情報学シンポジウム「情報分野のロードマップ」	11
	提案13 公開シンポジウム「高齢者の健やかな生活を実現するために－基盤づくりと人材育成」	13
	提案14 公開シンポジウム「日本の学術の展望－化学からの提言2010と科学技術政策提言」	15
	提案15 第54回日本学術会議材料工学連合講演会	17
5 後援	提案16 国内会議	19
	提案17 国際会議	20
III その他		

6	
幹事会	8 6

提 案

報告「『リスク社会』下の自由と規制－撤退は国家の宿命か－」

- 1 提 案 者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 法学委員会「リスク社会と法」分科会においてこれまで審議してきた結果を別添のとおりとりまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の「報告」として取り扱うこと

7	
幹事会	86

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 東京体育学会
- ・ 国際戦略経営研究学会

(参考)

団体の概要

- ・ 東京体育学会
体育に関する科学的研究を行い、体育学の発展を図り体育の実践に奇与することを目的としている。
- ・ 国際戦略経営研究学会
戦略経営、関連分野の研究及び教育並びに経営実務の指導・改善に資することを目的としている。

8	
幹事会	86

提 案

第19回国際科学会議科学計画評価委員会
 (19th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review
 (CSPR)) 出席に係る会員の派遣

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第19回国際科学会議科学計画評価委員会に以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 黒田 玲子（第三部会員）
- 5 委員会期間 平成22年2月10日（水）～12日（金）
- 6 派遣場所 パリ（フランス）
- 7 開催趣旨 科学計画評価委員会（Committee on Scientific Planning and Review:CSPR）は、1998年に国際科学会議に設置され、年に約2回開催されている。今回の議題は、ICSU戦略計画（2006年-2011年）を踏まえた執行状況の検討及び、次期戦略計画（2012年-2017年）策定に係る議論をはじめICSUの各種事業の計画・評価に係る事項となっている。

9	
幹事会	86

提 案

公開シンポジウム「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」の開催について

1. 提案者 日本学術会議社会学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議社会学委員会
2. 共 催 社会学系コンソーシアム
3. 日 時 2010年1月23日(土) 13:00～16:00
4. 場 所 日本学術会議講堂
5. 分科会の開催 社会学委員会・日本の展望社会学分科会合同会合

6. 開催趣旨

近年、研究者間の国際交流は大きく進展した。インターネットやその他コミュニケーション手段の発達、また環境問題などグローバルな課題の噴出のもと、研究者個人や研究団体さらには政府や国家機関が国境を越えた研究の連携を模索する時代となった。国際交流研究者集会、地域的規模の学会や学術会議、さらにはグローバルな規模での国際会議など今日ではいたるところで開催されている。

他方、学問の国際化にともない国際的競争も厳しさを増している。研究者の頭脳流出と国内での研究の空洞化、研究重要研究拠点形成にむけてのグローバルな競争など、研究母体は一様に淘汰の波にさらされている。こうした状況のもと、敏感なアンテナを張り国際動向に機敏にかつ適切に対応することが強く求められているといえよう。

とはいえ、これまで確固たる国際化戦略のもとに活動が進められているわけではなかった。多くの場合、関心のある個人・大学などが主体となり研究交流をすすめる形での国際化が行われてきた。

国際化のうねりに飲み込まれることなく、主体的そして戦略的にそれぞれの国際化をおこなうにはどのようにすればよいか。日本の学術団体が今後国際的学問研究の発達拠点となり、グ

ローバルに活躍する研究者を多く輩出するためには、どのような施策を行えばよいか、焦眉の課題として取り上げたい。

7. 次 第

- 13:00～13:05 開会挨拶：庄司興吉（社会学系コンソーシアム・清泉女子大学教授）
- 13:05～13:10 趣旨説明：野宮大志郎（社会学系コンソーシアム・日本学術会議連携会員）
- 13:10～13:25 「どのような国際化がなされるべきか：学問の国際化の理念」
矢澤修次郎（日本社会学会、成城大学教授）
- 13:25～13:40 「国際的学問研究発達の拠点形成や国際的に活躍する研究者の輩出」
吉原直樹（日本都市社会学会 東北大学教授・日本学術会議連携会員）
- 13:40～13:55 「国際比較調査研究の方法」
石井クンツ昌子（日本家族社会学会・お茶の水女子大学教授）
- 13:55～14:10 「国際研究集会、国際会議招致等をめぐる課題・問題点」
須田木綿子（福祉社会学会・東京大学教授）
- 14:10～14:25 「日本固有の学問体系との摩擦」
山 泰幸氏（日仏社会学会・関西学院大学准教授）
- 14:25～14:40 「学問の国際化：社会福祉の視点から（仮タイトル）」
白澤政和（日本学術会議委員・大阪市立大学教授）
- 14:40～14:55 提議：「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」
登壇者未定（日本学術会議会員）
- 14:55～15:05 休憩
- 15:05～15:55 全体討論：「日本の社会福祉学・社会学の国際化に向けて」
- 15:55～16:00 閉会挨拶：直井 優（未定）（日本学術会議社会学委員会委員長・大阪大学名誉教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

10	
幹事会	86

提 案

第26回宇宙利用シンポジウムの開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 総合工学委員会
宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部
2. 共 催： なし
3. 後 援： なし
4. 日 時： 平成22年1月25日(月) 10:00～18:00
平成22年1月26日(火) 10:00～18:00
5. 場 所： 宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部 相模原キャンパス
(神奈川県相模原市由野台 3-1-1)
6. 分科会の開催：
7. 開催趣旨： 国際宇宙ステーションでの日本の実験運用利用が本格的に開始されて科学的な成果があげられつつあり、また新しく定められた宇宙基本計画を実施していく体制が整えられようとしている。微小重力や地球圏外環境など宇宙を利用する科学とその周辺の現況について情報を共有し、それぞれの研究分野の学術的意義をたしかめ、この分野の学術の将来展望をひろく研究者の間で論議する。
8. 次 第：

開会あいさつ：久保田 弘敏(日本学術会議連携会員)

I 講 演

- 1) 日比谷孟俊(慶應義塾大学、日本学術会議連携会員)
 - 2) 跡見順子(東京大学、日本学術会議連携会員)
- その他

II 討論など(1月25日 17:00～18:00)

閉会あいさつ: 藤井孝藏 (宇宙航空研究開発機構・情報・計算工学センター長、教授、日本
学術会議連携会員)

参加申込方法

本シンポジウムの情報は学術会議の該当ウェブページおよび<http://www.isas.jaxa.jp>に
掲載します。詳細な情報については、E-mailもしくはFaxにて必要事項(氏名、所属、連
絡先電話番号、E-mailアドレス)をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込
みください。

宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部 シンポジウム世話人・山下雅道

E-mail: SUR26@surc.isas.jaxa.jp Fax: 042-759-8449

9. 関係部の承認の有無: 第三部承認

1 1	
幹事会	8 6

提 案

シンポジウム「日本の生きるべき新しいパラダイムと材料学」の開催について

1. 提案者 材料工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議 材料工学委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成22年1月29日（金）10：00～18：00
5. 場 所：日本学術会議 講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 委員会等の開催：材料工学委員会・材料工学将来展開分科会 合同会議

7. 開催趣旨：

17世紀初頭の日本の銀産高は世界のほぼ3分の1を占め、また世界最大の産銅量が示すように、我が国は世界に冠たる鉱物資源輸出国であった。また、伊万里の磁器に代表される工芸品、美術品を輸出し、鉱山技術とともに製錬技術、磁器製品を作り上げる工業技術により価値を手に入れた。しかし、我が国の鉱物資源は多種多様であったものの、いずれも規模が小さく第二次世界大戦以後、国際競争力を失い、銅、鉛、亜鉛鉱山も閉山し、全面的に輸入に依存するようになった。一方、原材料を加工し、付加価値を与えて製品化する、いわゆるものづくり技術は大きく進展し、工業製品を輸出することで外貨を獲得し、エネルギー、食料などを確保している。

工業立国への道は決して平坦ではなかった。足尾事件に代表される鉱害問題、水俣病、イタイイタイ病、四日市公害を初めとする数々の環境問題が起こり、生態系や人体に大きい影響を与え、近代工業生産を大きく変革するきっかけとなった。現在の我が国の環境技術は、この時期の極めて大きい犠牲のもとに発達してきた。

次に起こった二度にわたるオイルショックにおいて、工業生産技術は生産規模の縮小ではなく、省エネルギーを図ることで対応し、結果的に国際競争力強化につながった。今、大きい変化が起ころうとしている。中国はこの20年間でGDPを5倍近く伸ばし、我が国が担ってきた世界の製造業を肩代わりする勢いである。中国、アセアン、インドなどの国々に見られる共通した動きは、発展途上国から近代工業国への移行で、これらの国は大人口をかかえているため、膨大な鉱物資源、エネルギー資源が必要され、世界的な規模で問題解決に当る必要がある。

このような背景のもと、課題解決先進国としての我が国は、今後数十年の課題が我が国の少子化と大人口国の経済爆発であるのであれば、このインパクトを最小限に緩和することで世界に貢献すべきである。すなわち、顕在化している中国、インドにおける環境劣化に対する対応技術指導、リサイクルを前提とした材料開発、またそのプロセス開発、あるいは極めて入手容易な素材による最低性能製品の製造技術開発とコンセプト提供などで我が国の材料科学を広める。その一方で、重要な技術開発を国内で積み上げ、エネルギーと鉱物資源の開発と延命を初め、世界の貧困と紛争の撲滅、食料の十分な確保のため、教育と研究で貢献することである。そのためには、我が国で国内外の人材の育成を行い、世界における我が国の存在の強さを高める必要がある。

大学の研究において、材料工学の名目的な人的配置はそれほど減少していないが、従来の古典的構造材料の力学的性質やそれらの生産技術、製錬などからバイオマテリアル、電子デバイス、ナノマテリアル、エネルギーデバイス等へ大きく拡張されていることに留意する必要がある。世界の材料科学でもっとも網羅的な研究体制を取りつつ、低い国家的支援と国家としての方針なき研究戦線をとっているといえる。

このような背景のもと、世界の材料研究と材料生産技術を俯瞰した上で、材料工学委員会が窓口となり、今後の指針を得るために、本シンポジウムを開催し、議論する。

8. 次 第：

基調講演：

13:00-13:30 世界の研究動向と我が国の材料工学の進むべき方向性

(日本学術会議連携会員 東京大学名誉教授) 岸 輝雄

各論：(仮題例)

13:30-14:00 環境調和型「高度エネルギーフロー」実現のための革新的材料技術

(日本学術会議連携会員 東京工業大学) 細野 秀雄

14:00-14:30 先端医療のための革新的材料技術

(日本学術会議第三部会員 東京女子医科大学) 岡野 光夫

14:30-14:50 ～コーヒーブレイク～

14:50-15:20 社会基盤の安全安心化革新技術

(東京大学先端科学技術研究センター) 香川 豊

15:20-15:50 自動車からみたエネルギーと材料

(トヨタ自動車株式会社) 広瀬 雄彦

15:50-16:20 クリティカルメタル

(日本学術会議連携会員 東北大学多元物質科学研究所) 中村 崇

16:20-16:50 材料工学分野の人材育成

(日本学術会議連携会員 北陸先端科学技術大学院大学 特別学長顧問)

牧島 亮男

パネルディスカッション

グリーンニューディールと材料 講演者及び産業界より

まとめ：

16:50-17:00 ナノテク・材料研究と社会的課題解決

(日本学術会議第三部会員 物質・材料研究機構 理事) 馬越 佑吉

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

東京大学生産技術研究所 前田教授室 秘書 高田 真美

電話：03-5452-6297 FAX：03-5452-6299

1 2	
幹事会	8 6

提 案

第3回情報学シンポジウム「情報分野のロードマップ」の開催について

1. 提案者 情報学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 情報学委員会
2. 共 催： 無し
3. 後 援： 情報処理学会（予定）、電子情報通信学会（予定）
4. 日 時： 平成22年3月6日（土）13：30～17:45
5. 場 所： 日本学術会議 講堂
同日、午前中に情報学委員会の各分科会を会議室で開催する予定。講堂使用時間帯には会議室は利用しない。
6. 委員会等の開催：
同日、午前中に情報学委員会、および各分科会を開催予定。
7. 開催趣旨：
日本学術会議では、文部科学省の要請を受けて各分野におけるロードマップの作成を進めています。その作成に関しては、我が国において限られた研究開発予算のもとでの大型研究プロジェクトを計画的に推進するためにも重要であることが、第4期科学技術基本計画に関する議論を行っている文部科学省科学技術・学術審議会基本計画特別委員会においても指摘されているところです。このような状況下で、我が国の今後の情報分野におけるロードマップの作成が求められており、また、その重要性がますます高まっているなかで、企業、諸外国、さらには、先例的に国内で策定されているロードマップに関する情報提供のご講演をいただいた後、情報学委員会の各分科会の委員長をパネラーとして、会員・連携会員に加えて一般の方々からも広く意見を交換し、日本における情報分野のロードマップについて議論することを目的とします。

8. 次 第：

【以下の次第において、講演題目、パネル題目は仮題である。】

- 13:30-13:40 開会挨拶「情報分野のロードマップが求められている現況」
村岡 洋一（情報学委員会委員長：早稲田大学）
- 13:40-14:30 招待講演「企業における情報分野のロードマップ」
講演者人選中
- 14:30-15:00 欧州における情報分野のロードマップ
発表者人選中
- 15:00-15:30 米国における情報分野のロードマップ
嶋田 一義（科学技術振興機構 研究開発戦略センター）（依頼中）
- 15:30-16:00 国内で作成されている情報分野のロードマップの例：
新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)によるロードマップ
前川 睦敏（経済産業省 産業技術環境局研究開発課）（依頼中）
- 16:00-16:15 休憩
- 16:15-17:45 パネル討論「日本における情報分野のロードマップ」
司会者：村岡 洋一（情報学委員会委員長）
パネラー（予定）：
坂村 健（ユビキタス空間情報社会基盤分科会委員長）
青山 友紀（情報ネットワーク社会基盤分科会委員長）
五條堀 孝（国際サイエンスデータ分科会委員長）
東倉 洋一（情報関係教育問題分科会委員長）
安達 淳（Eーサイエンス分科会委員長）
喜連川 優（ウェブ・メディア社会基盤分科会委員長）
今井 秀樹（セキュリティ・ディペンダビリティ分科会委員長）
北川 源四郎（大量実データの利活用基盤分科会委員長）

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

本件に関する問い合わせ先：

安達 淳（第3回情報学シンポジウム実行委員：国立情報学研究所）

E-mail: e-science-sec@nii.ac.jp

13	
幹事会	86

提 案

公開シンポジウム「高齢者の健やかな生活を実現するために
－基盤づくりと人材育成」の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会、
長寿科学振興財団
2. 日 時：平成22年3月13日（土）、13：00～15：30
3. 場 所：東京大学情報学環・福武ホール（本郷キャンパス）

4. 開催趣旨：

高齢社会が進展する中で、高齢者にまつわる課題については多方面からの論議が繰り広げられている。例えば、医療・介護を筆頭に健康づくり、生きがい、尊厳死等多様な内容のなかで、高齢者の健康を支える学問的基盤やその方略、人材育成を図ることは重要である。

医学や看護学、心理学や人間工学、社会科学等既存の学問領域から、高齢者の健康や生活の支援についてアプローチされているが、高齢者を中心にしたいわゆる学際的な取り組みが希薄といえる。

そこで本シンポジウムは、高齢者の健康を支える基盤の構築づくりとともに、関連する人材の育成に向けて、日頃どのように考え、取り組んでいるのかをそれぞれの立場から提示し、参加者と共に考える場とすることを目的として企画した。

5. 次第

【司会】13：00～13：05

長田久雄（桜美林大学大学院教授、日本学術会議連携会員）

小西美智子（岐阜県立看護大学教授、日本学術会議連携会員）

【挨拶】13：05～13：10

金川克子（神戸市看護大学学長、日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会委員長）

【シンポジスト】 13：10～14：50

- ・ 高齢者自らが意図する健康を支える基盤づくり（仮）
高見国生（（社）認知症の人と家族の会会長）
- ・ 家庭医養成で広がる地域基盤型高齢者ケア
葛西龍樹（福島県立医科大学教授）
- ・ 生活支援の意義と人材育成
白澤政和（大阪市立大学大学院教授、日本学術会議会員）
- ・ 超高齢社会対応のまちづくり
秋山弘子（東京大学特任教授、日本学術会議会員）

※シンポジスト一人25分程度で発言

【指定討論】 14：50～15：10

老年看護学、歯科学の分野から

【全体討論、まとめ】 15：10～15：30

6. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 4	
幹事会	8 6

提 案

公開シンポジウム「日本の学術の展望－化学からの提言 2010 と 科学技術政策提言」の開催について

1. 提案者 化学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議化学委員会、日本化学会
2. 共 催： 日本化学会将来構想委員会、高分子学会
3. 後 援： なし
4. 日 時：平成 22 年 3 月 28 日（日） 13:00 ～ 17:30
5. 場 所： 近畿大学本部キャンパス会議室（予定）
6. 委員会等の開催： 無し
7. 開催趣旨： 日本学術会議及び化学委員会では、学術研究の方向等を長期的視野で継続的に検討し、広く日本の学術研究の方向・展望を「日本の展望－化学からの提言 2010」としてとりまとめた。化学委員会の各専門分野委員会の展望・提言を日本化学会会員に紹介し議論を行う。その骨子を第 4 期科学技術基本計画への反映に努める。
8. 次 第：
 - (1) 開会の辞（趣旨説明） 岩澤康裕
 - (2) 日本学術会議第三部（理学・工学）部長 岩澤康裕
「日本の展望－理学・工学からの第 4 期科学技術基本計画（戦略）への提言」
 - (3) 日本学術会議化学委員会委員長 藤嶋 昭
「日本の展望－化学からの提言 2010」
 - (4) 化学委員会物理化学・生物物理化学分科会委員長 北川禎三

- 「物理化学・生物物理化学からの提言 2010」
- (5) 化学委員会無機化学分科会委員長 田中晃二
「無機化学からの提言 2010」
 - (6) 化学委員会有機化学分科会委員長 山本嘉則
「有機化学からの提言 2010」
 - (7) 化学委員会高分子化学分科会委員長 岡本佳男
「高分子化学からの提言 2010」
 - (8) 化学委員会分析化学分科会委員長 澤田嗣郎
「分析化学からの提言 2010」
 - (9) 化学委員会材料化学分科会委員長 橋本和仁
「材料化学からの提言 2010」
 - (10) 化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会委員長 菅原 正
「結晶学からの提言 2010」
 - (11) 化学委員会生体関連化学分科会委員長 青山安宏
「生体関連化学からの提言 2010」
 - (12) 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同化学工学・触媒工学分科会委員長
架谷昌信
「化学工学・触媒工学からの提言 2010」
 - (13) 閉会の辞 藤嶋 昭

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

電気通信大学電気通信学部 岩澤康裕

Tel: 042-443-5921 Fax: 042-443-5483

E-mail: iwasawa@pc.uec.ac.jp

1 5	
幹事会	8 6

提 案

第54回日本学術会議材料工学連合講演会の開催について

1. 提案者 材料工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会
2. 共 催：日本学術会議材料工学委員会，＊土木学会，＊日本化学会，＊日本機械学会，＊日本金属学会，＊日本建築学会，＊日本材料学会，安全工学会，化学工学会，紙パルプ技術協会，火薬学会，軽金属学会，高温学会，高分子学会，触媒学会，石油学会，セメント協会，繊維学会，炭素材料学会，電気化学会，電気学会，日本航空宇宙学会，日本材料強度学会，日本真空協会，日本接着学会，日本セラミックス協会，日本船舶海洋工学会，日本塑性加工学会，日本鑄造工学会，日本鉄鋼協会，日本熱処理技術協会，日本バイオマテリアル学会，日本非破壊検査協会，日本複合材料学会，日本分析化学会，日本木材学会，日本レオロジー学会，表面技術協会，粉体工学会，粉体粉末冶金協会，無機マテリアル学会，溶接学会（＊印 幹事学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成22年10月25日（月） ～ 10月27日（水）
5. 場 所：ハートピア京都
（〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375）
6. 委員会等の開催：（該当のある場合）
7. 開催趣旨：日本学術会議材料工学委員会を中心に関連学協会との連携強化と若手人材育成のための連合講演会
8. 次 第：一般講演、オーガナイズドセッション（含基調講演）、特別講演
特別講演の講演日に材料工学委員会 馬越委員長挨拶，豊田政男
連携会員が講演
講演会初日に機械工学委員会 久保司郎連携会員挨拶

参加対象者：一般

参加費：無料

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

社団法人日本材料学会

〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町 1-101

TEL075-761-5321 FAX075-761-5325 E-mail jimu@jsms.jp

16	
幹事会	86

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
日本林業再生の道 Part V ー日本の森林を経営するのは誰かー ① 主催：森林・林業・環境アカデミー、NPO法人才の木、NPO法人京都・森と住まい百年の会 ② 期間：平成22年1月16日 ③ 場所：キャンパスプラザ京都 第一講義室	森林・林業・環境アカデミー会長	第二部

17	
幹事会	86

提 案

国際会議の後援について

1 提 案 者 会 長

2 議 案 国際会議を後援すること。

3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

国際ロールシャッハ及び投映法学会第20回日本大会

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：国際ロールシャッハ及び投射法学会第20回日本大会 英文：The 20th Congress of the International Society of the Rorschach and Projective Methods
開 催 時 期	平成23年7月16日～7月20日（5日間）
開 催 場 所	東京都（国立オリンピック記念青少年総合センター）
主 催 団 体	包括システムによる日本ロールシャッハ学会
共 催 団 体	日本ロールシャッハ学会
後 援 団 体 ※すべて予定	日本心理学会、日本臨床心理士会、日本心理臨床学会、日本 描画テスト・描画療法学会、日本犯罪心理学会
母 体 団 体 等	和文：国際ロールシャッハ及び投射法学会 英文：International Society of the Rorschach and Projective Methods（ISRP）
参加予定者数 〔参加予定国〕	国外 100 人 国内 500 人 計 600 人 〔21 カ国〕
会 議 内 容	特別講演，基調講演，シンポジウム，ワークショップ，研究 発表（口頭、ポスター発表）等
会 議 議 事 録 等	大会開催の概要について、事後報告する予定
開催経費の財源	大会参加費 22,560 千円 ワークショップ参加費 6,000 千円 寄付金等 1,500 千円 計 30,060 千円
〔募 金 団 体〕	（窓口となる団体名） なし
申 請 者	包括システムによる日本ロールシャッハ学会 会 長 中村 紀子
連 絡 責 任 者	国際ロールシャッハ及び投射法学会第20回日本大会組織委員会 事務局長 渡邊 悟